

2014建設リサイクル技術発表会・技術展示会の概要

(主催) 建設副産物リサイクル広報推進会議、中国地方建設副産物対策連絡委員会
 (後援) 国土交通省、3R活動推進フォーラム

今年、「建設技術フォーラム 2014in 広島」「エコ・イノベーションメッセ 2014in ひろしま」「脱・温暖化フェア 2014in ひろしま」と同時開催の形で、「2014 建設リサイクル技術発表会・技術展示会」を開催しました。

【技術発表会】

日 時：平成26年11月21日（金）13：00～16：30
 場 所：広島県立広島産業会館 東展示館
 参加人数：約340名



2014 建設リサイクル技術発表会

安全・安心を支える建設リサイクル

特別講演
 「東日本大震災で発生した
 災害廃棄物の処理業務報告」
 (一社)日本建設業連合会 復興・復興対策特別委員会
 災害廃棄物部会幹事長 男島 彰 氏

「建設リサイクル推進計画2014の策定について」
 国土交通省 総合政策局 公共事業企画課課長
 環境・リサイクル企画室長 福島 真司 氏

11月21日(金)13:00～
 (開場・受付12:30～)
 広島県立広島産業会館 東展示館

対象品目	平成24年度実績	平成30年度目標
アスファルト・コンクリート塊	再資源化率 99.5%	99%以上
コンクリート塊	再資源化率 99.3%	99%以上
建設発生木材	再資源化・増減率 94.4%	95%以上
建設発生石膏	再資源化・増減率 95.0%	90%以上
建設発生石膏	再資源化・増減率 3.9%	3.5%以下
建設発生石膏	再資源化・増減率 98.2%	60%以上
建設発生石膏	再資源化・増減率 96.0%	96%以上
建設発生石膏	再資源化・増減率 96.0%	90%以上

主催 建設副産物リサイクル広報推進会議 中国地方建設副産物対策連絡委員会
 後援 国土交通省(予定) ・ 3R活動推進フォーラム(予定)



建設副産物リサイクル広報推進会議
 北橋会長((一財)先端建設技術センター 理事長)



中国地方建設副産物対策連絡委員会
 尾藤委員長(中国地方整備局 局長)



国土交通省 総合政策局
 中神技術参事官

■特別講演

東日本大震災で発生した災害廃棄物、津波堆積物のうち、岩手県宮城県の処理について一般社団法人 日本建設業連合会 復旧・復興対策特別委員会災害廃棄物部会 幹事長 児島 彰氏から報告を頂きました。

また、「建設リサイクル推進計画 2014」について 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 環境・リサイクル企画室長 福島 眞司氏から策定の詳細の報告を頂きました。

東日本大震災で発生した災害廃棄物等の処理業務報告

一般社団法人 日本建設業連合会
復旧・復興対策特別委員会
災害廃棄物部会 幹事長 児島 彰

東日本大震災では、環境省が処理方法のマスタープランを2カ月後に策定しました。その処理方法は、最終処分量の削減、再利用、資源のリサイクルと明記されていました。被災した市町村では復旧・復興のための様々な業務が山積して過酷な状況のため、特別措置法に基づき県が委託を受けて処理を行う事になりました。一番重要なことは、最終処分のスケジュールが平成26年3月末というマイルストーンを与えられたことです。

岩手、宮城では日建連会員企業27社が、廃棄物処理の14処理区を担当し、災害廃棄物2,400万トンの約半数を中間処理・分別をしたことになりました。

再利用、リサイクルについては、環境省の公式発表ですが、再生利用できたのは、約90%弱ということです。どうしても埋め立てしないといけないものもありましたので、こういう結果になりました。

処理業務等では各社がいろいろと再生、リサイクルに新技術を開発されています。国土交通省、環境省、地元の皆さま、地元企業とも一緒に行って、これら関係者の連携が上手くでき、実施できた事が、団体としては非常にありがたく思っています。



建設リサイクル推進計画 2014 の策定について

国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課
環境・リサイクル企画室長 福島 眞司

本年9月1日に公表された「建設リサイクル推進計画 2014」の策定の経緯や策定にあたっての基本的な考え方、メリハリをつけた推進計画となる工夫や新たな施策等を中心に以下の構成で「建設リサイクル推進計画 2014」についての詳細なご説明を頂いた。

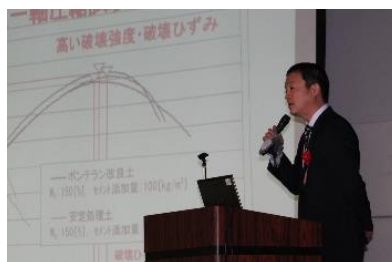
1. 建設リサイクル推進計画の策定経緯
2. 平成24年度建設副産物実態調査結果の概要
3. 建設リサイクル推進計画の概要
4. 新たにとり組むべき重点施策の概要
5. 建設リサイクル推進にあたり引き続き取り組むべき施策の概要
6. 今後の対応



■技術発表

建設リサイクル技術発表会第2部として、以下の5団体の皆様より建設リサイクルや環境に関する事例報告を發表いただいた。

- (1) ボンテラン工法研究会
泥土リサイクル技術
『ボンテラン工法』



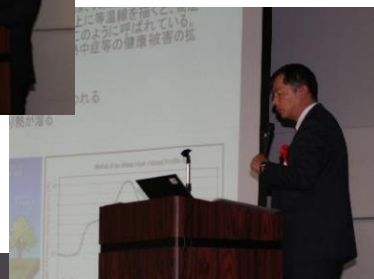
- (2) 株式会社奥村組
災害廃棄物のコンクリートがれきの
再生コンクリートとしての再利用に関する検討



- (3) 日特建設株式会社
老朽化した吹付法面を
再構築するニューレスプ工法



- (4) 日本道路株式会社
超保水性インターロッキングブロック
『レインボーエコロブロック Biz』



- (5) 独立行政法人土木研究所
「建設発生土利用技術マニュアル第4版」の
改定のポイント等について



【技術展示会】

平成26年11月21日（金）10：00～17：00
11月22日（土）10：00～16：00
於 広島県立広島産業会館 西展示館

以下の28団体により、展示が行われた。

ブース 番号	出展団体名	出展内容
K-26	清水建設(株)	環境未来都市構想 グリーンフロート
K-32	岡山大学	積雪地での高井耐久性や、排水性舗装への対応も可能 とした新しい区画線材料を紹介する
K-33	日本道路（株）	<ul style="list-style-type: none"> 発電マット「道しるべ」 人が通行することにより生じる振動力発電 パネル展示・模型 発電マットロング W600*D3600*H30 ・パンフレット レインボーエコロブロック Biz 超保水性インターロッキングブロック パネル展示・サンプル・パンフレット
K-33	建設関連産業廃棄物再資源化 連絡協議会（建産廃ゼロ協）	建設事業で発生する廃棄物の有効利用、廃棄物ゼロの 実現への寄与が目的 パネル展示・サンプル・パンフレット
K-38	独立行政法人 土木研究所	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート道路橋桁端部の腐食環境改善技術 ダムの変位計測技術（GPS・ワイヤレス変位計） 部分薄肉化 PC 版を用いたトンネル補強工法
K-39	独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所	<ol style="list-style-type: none"> 汎用二次元氾濫計算ソフトを用いた洪水の氾濫範囲 推定手法 寒地農業用水路の補修における FRPM ライニング工法
K-40	(株)奥村組	奥村組のリサイクル技術
K-40	広成建設(株)	炭素繊維による既設構造物の耐震補強等の鉄道の新 設・改良・保守工事に関する施工技術

K-41	佐藤工業(株)	下水道汚泥の固形燃料化技術他
K-41	東急建設(株)	耐震補強技術 ①アーチサポート工法 ②CB フープ工法 ③補強盛土一体橋梁
K-42	(株)大林組	・パネル展示(トンネル関連技術、橋梁関連技術、リサイクル技術他) ・ビデオ上映
K-43	鹿島建設(株)	土木分野及び建築分野におけるエココンクリート技術について ～CO ₂ 排出ゼロ以下のコンクリート「CO ₂ -SUI COM」、CFT充填用「KKCコンクリート」～
K-44	五洋建設(株)	「4D ソナーによる施工管理システム」 「T&C 防食-塩害用-コンクリート塩害劣化防止表面含浸工法」 「シェル型浸透固化処理工法」
K-45	前田建設工業(株)	建設技術 ①地中熱空調システム ②建物環境総合性能評価システム 土木技術 ①工事濁水の水道水並み処理 ②平等院阿字池の低質浄化工事の紹介
K-46	(株)竹中工務店	日本一の高さ(300m)「あべのハルカス」の環境技術
K-47	日特建設(株)	老朽化吹付のり面の補修補強技術ニューレスプ工法他
K-48	日本国土開発(株)	環境技術及びリニューアル技術
K-49	大成建設(株)	ZEB(ゼロエネルギービル)の研究・開発について
K-50	(一財)日本建設情報総合センター 中国センター	①建設副産物情報交換システム ②建設発生土情報交換システム
K-51	ボンテラン工法研究会	ボンテラン工法 繊維質系泥土改良材と固化材を用いて泥土を改良し、優れた機能を付加して再資源化する工法
K-52	(一社)日本建設業連合会	東日本大震災で発生した災害廃棄物等の処理業務
K-53、54	・建設副産物リサイクル広報推進会議 ・中国地方建設副産物対策連絡委員会	建設副産物リサイクル広報推進会議の会員及び活動の紹介
K-55	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター	電子マニフェストシステムの紹介及び導入相談 電子マニフェスト導入により事務処理の効率化を図ることができ、法令遵守を徹底することができます
E-17	日本鉱業協会 スラグ委員会	非鉄スラグの特長を生かした、道路舗装の長寿命化の効果と港湾工事におけるコスト削減
E-18	(株)P・C・Gビルテック	ビル、マンションの古くなったパイプを取り替えず安価で短期間にパイプを再生いたします。
E-19	(有)東根製作所	木質系バイオマスで生成した燃料ガスを温水ボイラーの熱源・発電装置の燃料として利用できます。
E-20	(株)テクノスナカタ	大量に廃棄されるバイオマス資源を炭化・粉炭として活用することで循環型社会を目指します。

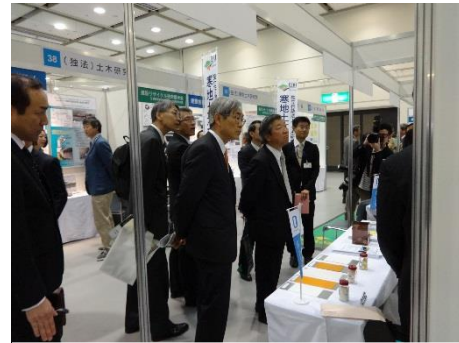
【優秀賞】

出展ブースに対する厳正な審査の結果、以下の2団体に、建設副産物リサイクル広報推進会議
会長より優秀賞が授与されました。

株式会社奥村組
日特建設株式会社

授与者

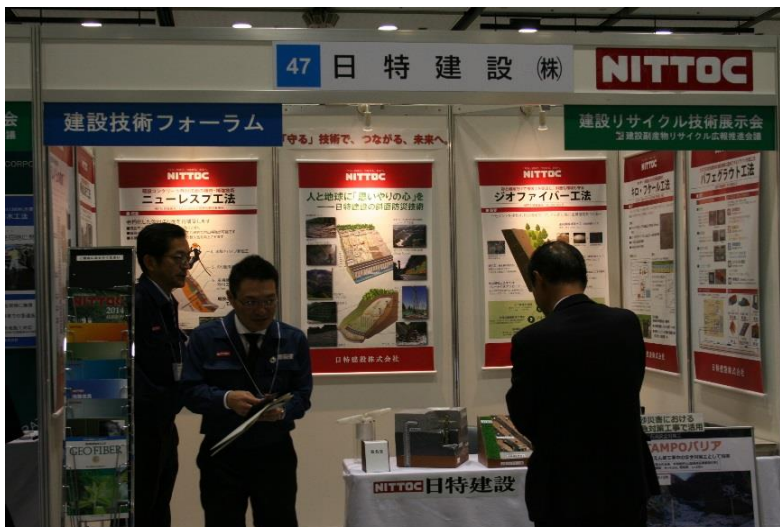
建設副産物リサイクル広報推進会議 会長
((一財)先端建設技術センター理事長)



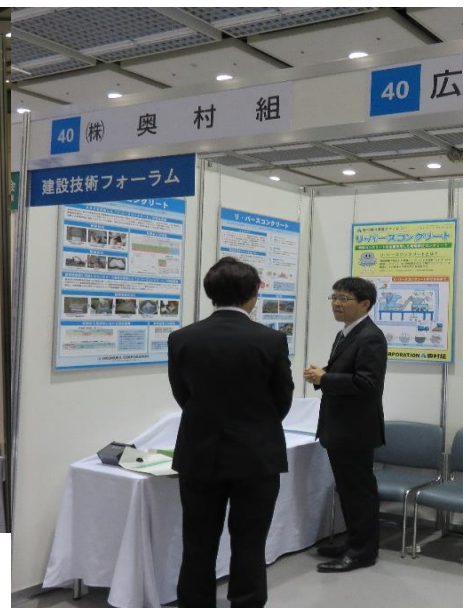
審査の様子



表彰状授与（左から 中国地方建設副産物対策連絡委員会幹事長、
日特建設株式会社、株式会社奥村組、建設副産物リサイクル広報推進会議会長）



出展の様子（日特建設株式会社）



出展の様子（株式会社奥村組）